

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数指定がある問いでは、句読点・記号なども一字として数えます）

「前書き」

「野沢佑」^{のざわたすく}は、^{*1}認知症^{にんちしやう}の兆候^{せうこう}が見られる祖父の付き添い^そで、夏休み中、介護施設^{かいごしせつ}「こもれび」のデイサービスに通うことになった。夏休みの宿題として、その様子を友人の^{いつぱい}一平と^{いつしよ}一緒にレポートするよう、担任の早田先生^{はやた}から言いつけられている。ある日、立ち入り禁止の「花の部屋」をのぞいてしまった佑たちは、「花の部屋」にいる「キワ子」さんについての話や様子を聞き、別の日に改めて「花の部屋」を訪^{おもむ}れることになった。

花の部屋は、静かだった。ドアを開けると、この前と同じ木の香り^{かお}が鼻をくすぐったが、なぜか佑には、前よりもずっとさわやかに感じられた。

「なんだか森の中みたいですね」

早田先生も、息を吸い込^こみ込んでいる。

「ええ。自然のひのきのエッセンスを使っているの。すがすがしいでしょう」^①

^{*2}林^{はやし}さんは言つて、ベッドに声をかけた。

「キワ子さん、起きてる？」

と、ほんの少しだけ、薄^{うす}いかけぶとんが動いた。

「お食事持ってきたわよ。今日は、特別に子どもさんたちが飲ませてくれるって」

林さんの手まねきに促^{うなが}されて、佑たちはベッドをのぞき込んだ。キワ子さんは、この間とまったく同じ顔で寝^ねていた。目は閉じられて、半分開いた薄いくちびるが、少し震^{ふる}えていた。と、閉じられていた目が **A** 開いた。

「あ、起きた」

一平の声に、目の開き具合が大きくなった。

「子どもたちがお見舞^{みま}いに来てくれたわよ」

林さんが紹^{しょうかい}介してくれて、

「こんにちは」

佑はとりあえず挨拶^{あいさつ}をした。

「こんにちは」

一平もそれに続き、

「児童たちがここでお世話^{せわ}になっていきます。お騒^{さわ}がせして申し訳ありません」

早田先生が状^{じようかい}況^{きやう}を説明した。

キワ子さんは黙^{だま}ったまま、そんな三人を **B** ながめた。目は半分くらいしか開いてなかったが、しっかりと見ているのがわかった。あんまり見られて、少々恥^はずかしくなってしまうほどだった。

「キワ子さん、わかる？」

林さんがきくと、キワ子さんは「わかった」というみたいに、頭をかすかに動かした。そして、

「子どもは、いいねえ」

と、うつすらした声で言った。

「そうねえ、よかったねえ」

林さんは、これ以上できないというような笑^{えが}顔^おになって、キワ子さんのベッドを少し起こした。

② そうして、佑に吸いのみを差^さしだした。佑はそれを受け取り、おそろおそろキワ子さんの口元に持っていく。

③ 「ほんの少し、ゆっくりね」

言われたように、ゆっくりと傾^{かたむ}ける。^{*3} スムージーのとりみは強いので、注ぎ口からなかなか出てこなかったが、かえってそれで量の調節がうまくいった。ほんの少しだけ出た液体は、きれいにキワ子さんの口の中に入った。

こくん。

キワ子さんは、それを待っていたように飲み込んだ。 **C** 口が動く。やがて、のどが動いたと思うと、

「ああ、おいしい」

そう言った。小さな声は、かすれているのに、澄^すんできこえた。

「まあ、よかった」

④ 林さんが涙声になった。

「こんなにおいしそうになにかを口にしたのは、本当に久しぶり。よかったねえ、おいしいねえ、キワ子さん」
何度も「よかった」を繰り返す林さんは、自分のほうがずっとうれしそうだった。

それから、一平と先生もひと口ずつ飲ませたが、キワ子さんはじょうずにスムージーを飲み込んだ。

ジージー。

窓越しに、夏空を震わせるセミの音が響いてきた。

ジージー。ジージー。

「そこだ、佑」

祖父が指した先に、つやめいた茶色の物体を見つけた。

「あ、ほんとだ」

佑はそれをそとつまむ。セミの幼虫だ。羽化のために、土の中から出てきたところを、つかまれて、もぞもぞと足を動かしている。佑は細心の注意を払って、それをプラスチックのケースに捕獲した。お墓参りのために持ってきた、和菓子が入っていたケースに穴をあけた、急ごしらえの虫かごだ。

八月十三日、佑は祖父を含めた家族五人で、祖母のお墓参りに来た。祖母が亡くなってからは、お盆の墓参りは、毎年の恒例

行事になっている。

この日の祖父は、とても落ち着いていた。祖父の調子はいい変わらず日替わりで、

「武田二課長を呼んできてくれ」

と、昔に戻っていたかと思えば、

「佑、夏休みの宿題は進んでいるのか」

と、極めてまともな質問をしたりする。祖父の記憶は福引きのガラガラみたいだった。出てきた態度で、どの時代にいるのかを判断するしかなかった。

けれども、朝、迎えに行くと、

「今日は、おばあちゃんの墓参りだったな」

と、ちゃんと覚えていた。しかも準備までしていた。なんとお供えの和菓子まで買っていたのだ。これには家族全員驚いた。

「えー、おじいちゃん、買い物できたの？ しかもそれ、おばあちゃんの好物だよ。百点だね」

目を見開いた理子に、祖父は、

「あたり前だ」

と、鼻を鳴らして答えたほどだ。ただ、かぶった帽子は裏返しだった。

霊園は、車で二十分くらいのところにある。祖母のお墓は駐車場からはすぐなので、つえをついた祖父でも、ゆっくり歩く

分には問題はなかった。

みなで、お墓の周りの草を抜き、墓石に水をかけた。祖父は、よどみのない手つきで、和菓子を供え、お線香に火をつけた。そのしぐさには、品格さえ漂っていた。

「お墓っていう場所は、気持ち落ち着かせるっていうからな」

「おばあちゃんの前で、かつこいいところを見せたいのよ」

両親も祖父の様子に、うれしそうな笑顔を浮かべていた。

そんなふうに完璧だった祖父が、突然奇行に出たのは、お参りをした直後のことだった。

手を合わせて頭をたれ、静かに目をつぶっていた祖父は、目を開けると、供えたばかりの和菓子のケースに手を伸ばした。

D 荒い手つきでふたを開け、入っていた求肥をバクリと口に入れたのだ。

「あーあ」

と佑は肩を落とし、

「最後のところで」

「おしかったな」

両親は悔しがり、

「九十八点。つめが甘い」

理子は受験生らしい指摘をした。

E 祖父は、口をもごもごさせたまま、つえをついて歩いていく。

⑨ 「ちよ、どこに行くの？」

佑はあとを追いかけてながらたずねたが、返事はない。

「ごみは家に持って帰って捨てたらいいよ」

和菓子が入っていたケースを握っていたので、ごみ捨てなのかと思っただ、祖父は無言だ。

ジージージー。

墓石に反響するのか、セミの声が大きくきこえる。

結局祖父は、霊園の行き止まりまで行きついてしまった。その先は林みたいに木がたくさん植えられていて、入れないように、竹で生垣が作ってあった。祖父は生垣の手前で座り込んだ。

「なにしてんの？」と、佑はもう一度きこうとしたが、やめた。ふと、林さんの言葉を思いだしたからだ。

「おじいちゃん、具合でも悪いの？」

心配して手を出そうとした理子を、佑は制した。

「大丈夫。こっちから見たら、わけがわからなくても、お年寄りのやっていることには、意味があるんだから」

林さんからの受け売りだ。

しばらく祖父は、なにかを探すように、地面を点検していたが、

「おお、やっぱりいたな」

と言った。

「なにが？」

「セミの幼虫だ」

「セミの幼虫？」

「そこと、そこだ、佑」

「あ、ほんとだ」

祖父が指を差したところに、佑も割れていない殻からを見つけた。しかも二匹ひきも。

そんなものを探していたのか？

佑はちよつと拍子ひょうし抜けした。^⑪意味があるのか、ないのか。

「ひとつは、おばあちゃんに持っていてやってろう」

でも祖父がそう言ったときだった。

「覚えてたんだ、お父さん」

F をひねる佑の背中越しに、母の感に堪えないというような声がした。^⑫振り返ると涙ぐんでいる。

「おばあちゃんね、亡くなる前に、セミの羽化が見たいって言い出したことがあってね」

「あ、そうだったよね。」 **G** 佑、一緒に幼虫探しに行ったじゃん

理子も思いだしたように続けた。その言葉に佑の頭の中でも、記憶がばちんとはじけた。^⑬

「あ、あったかも」

ジージージー。

ふつてくるようなセミの声の中、理子と幼虫を探したのは、三年前のお盆過ぎのことだった。

佑の住んでいる団地は、敷地内しきちに桜の木がたくさん植えてある。春には枝がしなるほどの花を咲かせる桜が、夏にはぎつしり⑭のセミで震える。当然、土の中にはたくさんの幼虫が眠ねむっていて、抜け殻があちこちに落ちている。父親がビールのつまみによく食べる、かりかりした空豆のから揚げあみたいな殻だ。それが、羽化するために、土から出てきたばかりの幼虫だ。

この幼虫をそつと持ち帰って、虫かごの中でや、網戸あみどにつかまらせて羽化させたことが、何度かあった。殻を破るときに、触さわったりしなければ、セミは無事に飛び立っていく。

^⑮「おばあちゃんが、見たいんだって。羽化するところ」

あの夏の日、佑はそう言う理子に連れられて、幼虫を探して団地の植え込みに **H** を凝こらしたのだった。けれども探してみると、案外あまいないもので、一時間近くもうろうろした。

「あのときの羽化は本当にきれいだったよねえ」

⑫ 理子はうつとりとした目で、佑に同意を求めたが、佑はうなずくことができなかった。

「見てない」

「え、そうだったけ？」

理子は「瞬^{いつしゆん}ひねりかけた」Fを、軽くたてに振った。

「あ、そうだったね。佑、行かなかったんだ。テレビを見たいとかなんとか言って」

あるとき、「早くしないと、羽化が始まる」とせかす理子から離^{はな}れて、佑はひとりで家に帰った。確かに見たいアニメもあったからだ、それよりも、病院が怖^{こわ}かった。日に日に弱^{よわ}っていく祖母の姿を見るのが嫌^{いや}だったのだ。その少し前から、佑は入院中の祖母をたずねるのがおっくうになっていた。

「やばかったよ。めっちゃきれいだったんだから」

あの日、理子は、先に見舞いに行っていた母や祖父と一緒に羽化を見たのだという。

「殻が割れて、ゆつくりと真っ白な羽が出てきたの。初めはぬれた絹糸みたいだったけど、すぐに白いレースみたいに広がった。

それが、見ている間にすきとおった緑色をおびたの。^{*}エメラルド細工みたいだったんだから」

⑬ 「あれは、おばあちゃんにも、いいなぐさめになったわね」

母も、祖父が幼虫を収めたプラスチックケースをいとおしそうに見た。

祖父が突然求肥を食べたのは、ケースを空にするためだったのだろう。食欲の衝動^{しょうどう}を抑えきれなかったわけではなかったのだ。

お年寄りのやることには、やっぱり意味がある。

見つけた幼虫を持って、祖母の墓まで戻った。供えたばかりの花の茎^{くき}につかまらせると、幼虫はしっかりと茎を握った。

無事に羽化できますように。

佑は両手を合わせた。

「で、それは？」

プラスチックケースに入ったままのもう一匹の幼虫を見ながら、たずねると、

「花の部屋にな」

祖父は静かな声で答えた。

(まはら三桃『奮闘するたすく』による)

- *1 認知症 …… 年を取ること起こる記憶障害を主とした病気のこと。
- *2 林さん …… 「こもれび」のスタッフ。
- *3 スムージー …… 凍^{こお}らせた果物や野菜をミキサーでジュースにした飲み物。
- *4 求肥 …… こねた白玉粉を蒸^むし、砂糖と水あめを加えて練り固めた、おもちのような菓子。
- *5 エメラルド細工 …… 緑色をしたガラス細工。

問一、——線①「すがすがしい」と同じような意味の言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問二、

A	く	C
---	---	---

にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の(ア)く(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-------------|---------|---------|-------------|---------|---------|
| (ア) A うつすらと | B まじまじと | C ゆっくりと | (イ) A ほんのりと | B おどおどと | C はっきりと |
| (ウ) A しつかりと | B まんじりと | C のんびりと | (エ) A ゆっくりと | B じろじろと | C しつとりと |

問三、——線②「差しだした」の主語を答えなさい。

問四、——線③「ほんの少し、ゆっくりね」とありますが、音読する場合はどのような読み方が最も適切ですか。次の(ア)く(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 安心させるように、最初は小さな声で「ゆっくり」は抑揚をつけてはつきりと読む。
(イ) 焦^{あせ}らせないように、やや小さな声で大切なことを確認^{かくにん}するように丁寧^{ていねい}に読む。
(ウ) 急いで伝えなければならないことなので、意識して小さな声で早口で読む。
(エ) 大切なことを伝えなければならないので、大きな声で、ゆっくりと読む。

問五、——線④「涙声になった」とありますが、ここから「林さん」のどのような人柄^{ひとがら}が読み取れますか。その説明として最も適切なものを、次の(ア)く(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 他人のことを、自分のことのように思うことができる優^{やさ}しい人。
(イ) 他人のことを、自分のことのように感じて思い詰^{つま}めてしまう人。
(ウ) 他人のことを、自分のことのように考えてしまうおせっかいな人。
(エ) 他人のことを、自分のことのように受けとめる神経質な人。

問六、——線⑤「よどみのない手つき」から想像される祖父の様子として最も適切なものを、次の(ア)く(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 一連の動作にためらいがなく、自信にあふれた様子。
(イ) 一連の動作がきびきびとしていて、緊張^{きんちやう}感がある様子。
(ウ) 一連の動作がゆったりとしていて、優雅^{ゆうが}な様子。
(エ) 一連の動作にとどこおりがなく、手慣れた様子。

問七、——線⑥「完璧だった祖父」とありますが、「祖父」の様子の中で「完璧だった」とは言えない点を、本文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。

問八、——線⑦「奇行」とは「普通とは変わった行動」のことですが、「祖父」が「奇行」に出た理由が読み取れる一文を本文中から抜き出し、その最初の五字を答えなさい。

問九、D・E・G にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----------|-------|-------|------------|-------|-------|
| (ア) D すると | E つまり | G そして | (イ) D それから | E すると | G だけど |
| (ウ) D しかし | E さらに | G つまり | (エ) D そして | E だが | G だから |

問十、——線⑧「つめが甘い」とは、どのような行為こういに対しての言葉ですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問十一、——線⑨「ちよ、どこに行くの？」とありますが、「祖父」は何をしに行こうとしているのですか、答えなさい。

問十二、——線⑩「林さんの言葉を思いだしたからだ」とありますが、「佑」が思い出した「林さん」の言葉が読み取れる一文を本文中から抜き出し、その最初の五字を答えなさい。

問十三、——線⑪「意味があるのか、ないのか」とありますが、「佑」のこの問いに対する答えが書かれている一文を本文中から抜き出し、その最初の五字を答えなさい。

問十四、F・H にはそれぞれ体の一部を表す漢字が一字入ります。その漢字を答えなさい。

問十五、——線⑫「母の」が直接かかっている部分はどこですか。次の(ア)～(オ)の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|-----------|-----------|--------|--------|
| (ア) 感に | (イ) 堪えないと | (ウ) いうような | (エ) 声が | (オ) した |
|--------|-----------|-----------|--------|--------|

問十六、——線⑬「記憶がぱちんとはじけた」とありますが、「記憶」が語られているのはどこまでですか。本文中から探し、その最後の五字を答えなさい。

問十七、——線⑭「ぎっしりのセミで震える」とはどのような様子を表していますか、説明しなさい。

問十八、——線⑮「おばあちゃんが、見たいんだって。羽化するところ」とありますが、ここで用いられている表現技法として最も適切なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| (ア) 反復法 | (イ) 擬人法 <small>ぎじん</small> | (ウ) 倒置法 <small>とうち</small> | (エ) 対句法 <small>たいく</small> |
|---------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|

問十九、——線⑯「見てない」とありますが、その理由を本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問二十、——線⑰「あれ」とは何を指しますか。本文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。

問二十一、次の一文は本文中から抜いたものですが、どこに入れるのが適切ですか。その直後の五字を答えなさい。

その殻に、たまに中身が入っていることがある。

二、次の①～③の□には、同じ漢字が一字ずつあてはまり、④～⑥の□には、反対の意味の漢字が一字ずつあてはまります。

□にあてはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

- ① □ 立 □ 歩 … 人に頼らず、自分の力で自分の信じておりに進んでいくこと。
- ② 難 □ 苦 □ … つらい苦勞を重ねること。
- ③ □ 心 □ 意 … 真心をこめてものごとを行う様子。
- ④ □ 耕 □ 読 … 自由気ままな生活すること。
- ⑤ 三 □ 四 □ … だんだんと暖かくなること。
- ⑥ 起 □ 回 □ … 今にもだめになりそうなものを、立ち直らせること。

三、次の①～④の熟語と同じ組み立てになっている熟語を、後の(ア)～(コ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ① 尊敬 | ② 新人 | ③ 未来 | ④ 読書 | |
| (ア) 無理 | (イ) 詩的 | (ウ) 定価 | (エ) 人造 | (オ) 農協 |
| (カ) 論述 | (キ) 動静 | (ク) 気化 | (ケ) 公営 | (コ) 貯金 |

四、次の①～⑦の――線部を漢字に改め、⑧～⑩の――線部の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① オリンピックがカイマクする。 | ② 都会に人口がミツシユウする。 |
| ③ キゲンゼンに発展した都市。 | ④ シンキョウの変化を語った。 |
| ⑤ 食欲はホンノウの一つだ。 | ⑥ シンアイの情を示す。 |
| ⑦ キャンプのモヨウを家に知らせる。 | ⑧ 新しい客船が就航する。 |
| ⑨ 殺風景に感じられた。 | ⑩ 郊外を散策する。 |

総点

一

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三

問十四

問十五

問十六

問十七

問十八

問十九

問二十

問二十一

二

①

②

③

④

⑤

⑥

三

①

②

③

④

四

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

受験番号

氏名